

2018年10月3日 千葉大学アカデミック・リンク・センター
千葉大学アカデミック・リンク・セミナー/ALPS セミナー
「認知科学の視点から考える教育・学修支援」
参加者アンケート集計結果

当日参加者数： 54名 アンケート提出数： 33件

千葉大学アカデミック・リンク・センターは、教育関係共同利用拠点として、「教育・学修支援専門職」の養成のために必要な研修プログラムの構築・運営の準備に取り組んでいきます。今後の活動のために、本日のセミナーに参加されたご意見・ご感想をお寄せください。なお、記載いただいたご意見・ご感想は、個人名・組織名が特定できないかたちで公開する場合があります。

1. 本日のセミナーで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- ・認知科学と学修が、むすびついたような感触あり。
- ・従弟制を脱することができない。魅力を訴える力に乏しい分野は、熱心な若手が来なければ衰退するしかないと分かった。
- ・言語が経験を阻害してしまうことがある。
- ・従来の「教育」では、「近接項」レベルの学習に陥りがち。「生態系」としての大学をめざすべき。
- ・結果報告や打ち手立案を中心とした内容ではなく、原因・要因解説を具体的シーンをういながら説明頂き、理解が深まりました。
- ・すべてが面白い視点で、来て良かった！
- ・サントリーのBOSS 開発過程（＝ブランド化の成功）の話は大変参考になりました。
- ・知識の身体化がむずかしいこと。
- ・学生の自発的学習について。
- ・大学は生態学であるべき。
- ・学生自らやらせる。規格化した学生にはさせない。
- ・生態学系としての大学。
- ・言語化することが、実はネガティブに働く可能性のあることに驚きました。
- ・全体像を把握しないと自ら行動しない。体感的、言語化出来ない事がある。
- ・ルーブリックを学内で推進することにとらわれがちだった現状について、一度立ち止まってもう一度考えるきっかけになった。
- ・言語化できない部分、感覚を大事にするという考え方に非常に共感しました。
- ・「教え方」スモールステップやチェックリストなのでプログラムを立てることもあったのですが、そこでのマイナス点がわかりました。
- ・納得できることばかりでした。どうしても目先のことの達成にのみとらわれてしまう。これは、学生に限らず、社会人でもあることだと思いました。
- ・個々の生き方をサポート。均質なモノを育てるのが教育ではない。理解は出きた。
- ・言語化するとぬけおちてしまうということ。“感動動機”が大事というのが心に残りました。
- ・結果まねという現象はよく直面する状況でふにおちました。
- ・表層的学習と背景の原理がある。形と型のちがひ。「場に適応した形、本質ができることが大事」これを納得した。
- ・教育や学習に関して注意すべきことの気づきを得ました。
- ・大学教育のあり方について考えさせられた。

(次ページに続く)

- ・大学事務職の立場から、教育職に対して抱いていた疑問の一端を学ぶことができました。
 - ・感染動機など、目標となるものが必要。
 - ・思考というものは、言語とあまり関係していない事。
- (以上原文まま)

2. 本日のセミナーで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- ・扱われた範囲で、わかり難い点があったかに対して。はっきりあったと言い難い。
 - ・社会に一定レベル（インフラから）の人員を出すための教育と、（それに満たない者を落第させることと）世界を率いる人物、エリートを出すための教育を、すでに限られ、さらに絞られるリソースの中でやらなきゃならない。じゃあどうする？という、アイデアが聞けると良かった。
 - ・質問の回答より、感染動機について知りたくなった。（勉強します）
 - ・知識の身体化の方法。特に高等教育において（ワザではなく）
 - ・認知科学。
 - ・「背後の原理」を学習者が自分のものにしていくための手法。例えば、自指すべきレポート像はどのようなプロセスで手に入れていくのか？
 - ・現在の大学でどうすべきか。設置基準が変わり質保証が求められている。一方学生はアルバイトで忙しい。どうすべきか。
 - ・言語化は思考と結びつかないというような話がありました。学校現場は思考したことを説明したり話し合ったりといった言語活動の充実を目指しており、どのような言語活動が効果的か研究を進めています。新学習指導要領も言語活動の充実を引き続き打ち出していますが、これは子ども達にとってよくないことなのでしょうか？
 - ・新しい考えをうかがうことができ、これから深めていきたいと思いました。ありがとうございました。
 - ・わからないことがまだみつかりません。（不勉強ですみません）
 - ・知識の身体化。
- (以上原文まま)

3. 大学における教育・学修支援の在り方についてのお考え、教育・学修支援のために必要と思う資質・能力、また、教育・学修支援のご所属先での取組事例やご存知の特徴ある事例などがあればお書きください。

- ・本学には、何があるのでしょうか？
 - ・どんどん落第させて良い&落第したことが就職に悪影響を与えない、アメリカ式の社会をつくる必要がある。入学時点で日米には学生のモチベーションのレベルがちがすぎる。
 - ・「あかん」のフィードバックを上から言われるのではなく自分でただひたすら問いつづける（出来が良かろうと悪かろう）
 - ・（集合知研究で、「世間一般の人がどう思うか」を考えると成績が向上という知見があるので）
 - ・「教育（生態系づくり）」と「研究」は分けるべき？（学生の身分でありながらすみません）
研究室の運営にあたり、「放任（学生にあまり口出ししない）」の風潮の方が、逐一指導するより効果的？
（自分で考える機会を持たせられそうなので）
 - ・短大は2年間、大学は4年間、入学して卒業するまでの間に一人ひとりの学生が自分の成長を実感できるよう支援する職員でありたいです。
- (次ページに続く)

- ・図書館の利用、レポートの書き方について、転移をねらった方法を考えていますが、なかなか難しく教員や授業とも連携して今後も検討していきたいと思えます。
 - ・本学職員がお世話になっております。学修支援の体制作り非常に役立っています。
 - ・ディープアクティブラーニングを目指して、映像教材作成しています。的●と評価に研究的に取り組んでいく予定。(●は解読不能)
- (以上原文まま)

4. 本日のセミナーの内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。

- ・学修というものの周知は、有意義。ご近所に学習しか認めない方がいるので。
 - ・大学教育はこうあるべきと訴えても、社会が求めるように変化するよう大学は強いられている中で、一教員が何ができるのか、疑問である。／「～をやればいい」という理解をする学生は大学全入時代で本来インフラを作るレベルの学生に過ぎない者が入学したというだけではなかろうか。
 - ・まず／引用文献／の中の鈴木先生の著書を読もうと思う。
 - ・学生の成長をあきらめる視点も必要だと思いました。ぜひ大学のシステムに取り入れていただきたいことです。
 - ・素晴らしいお話をありがとうございました。
 - ・学生と接する部署にいる職員であるので学生が継続して学んでいくような言葉かけのヒントがこのセミナーで得られたような気がします。
 - ・おもしろく拝聴しました。
 - ・大変参考になりました。ありがとうございました。
 - ・レポートライティングは、人を説得することである。
とても面白いセミナーでいろいろと気づきや成る程と思いました。有難うございました。
 - ・大学の制度としての支援と、個別の授業内での支援の両方が必要であると理解しました。それぞれの具体的な方策か事例を知りたいと思いました。
 - ・「言語化を急がない、振り返りシート」を作成し、昨年各授業で試行しています。
 - ・非常に興味深くおもしろい内容でした。普段学生に対して、教員に対して感じるものが、近接項や転移など理論がわかって理解できました。これから自ら改善策を考えなければと思いました。
 - ・最終的には学習者本人の意欲、動機が重要な要素で、ただそれを助長するのは難しいとなると、何がベストか大変悩ましいなと思いました。
 - ・目的を持たずに来る学生に対して自分で勉強、自分で目的を見つけてもらうにはどうすればいいのか、、、大学の在り方から考えさせられる。
 - ・とても興味深い内容でした。先生のご著書を読みたいなと思いました。
 - ・とても示唆に富む講義でした。消化はできませんでしたが。これからの日々で確りと考えたいと思えます。ありがとうございました。
 - ・研究職のFDをするとして、また、ディスカッションを●めたい。(●は解読不能)
- (以上原文まま)

5. 次の(1)、(2)について、該当するものに○をつけてください。

(1) a. 千葉大学外の方 20名 b. 千葉大学内の方 8名 (回答なし 5名)

(2) a. 学生 2名 b. 教員 8名 c. 大学職員(図書館職員を除く) 6名 d. 図書館職員 6名
e. 出版関係 2名 f. その他 9名 (回答なし・元教員など)

6. セミナーを何で知りましたか? (複数回答あり)

a. Web(アカデミック・リンク・センター) 4名 b. Web(図書館) 2名 c. Web(千葉大学) 1名
d. 図書館内電子掲示 0名 e. ポスター 0名 f. センターからのメール 18名 g. Facebook・Twitter 0名
h. asagao メーリングリスト 8名 i. その他 2名 (知り合いからの紹介など)

7. 学外(千葉大学外)の方にお伺いします。次の(1)、(2)について、該当するものに○を付けてください。(複数回答あり)

(1) 参加の経緯: a 所属機関からの推薦・業務命令 2名 b 自身の希望 24名 (記載なし 8名)

(2) 旅費の負担: a 所属機関負担 14名 b 自己負担 9名 c その他 (記載なし 10名)

8. 千葉大学 アカデミック・リンク・センターでは、セミナーの開催や関連する情報を提供しています。これらの情報を希望される方は、お名前・ご所属・メールアドレスをご記入ください。(既に登録されている方は引き続きお届けしますので、空欄で結構です)

お名前: () ご所属: ()

電子メールアドレス: 申込時に利用したもの それ以外 ()

ご協力ありがとうございました。

※ 11名が新規に継続的な情報提供を希望